第１５８回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成30　年　１ 月　24日提出）

１．題　目：教学マネジメントに基づいたシラバス改訂とその作成要領について

２．日　時：平成 29 年 11 月 7 日（火）、8 日（水）、9 日（木）　16:15～17:45

３．場　所：文教キャンパス　ＩＣＴ基盤センターセミナールーム

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学 FD に関する申合せ第２第１項への該当について
　[　○　] (1)　教員の教育活動に関するもの
　[　　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの
　[　○　] (3)　教育の組織的改善に関するもの
　[　　] (4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　] (5)　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　H28 年度に全学および各学部において３ポリシー（ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー）の整備を行いました。この整備に伴い，シラバスシステムの改修およびシラバス記載項目についての変更があります。これまで、シラバス作成においては，授業の到達目標，授業方法（授業の形式，事前・事後の学習内容），アクティブ・ラーニングレベル，成績評価の方法・基準等を明示する必要がありました。本 FD では，本学の新しい教学マネジメントの考え方および新たに整理された項目に関し，大学教育イノベーションセンターの教員から情報提供するとともにシラバス作成の支援を行います。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
　① 本学の教学マネジメントに関する確認
　② 新シラバスの変更点
　③ シラバスの作成要領
　④ 質疑応答ほか

担当：大学教育イノベーションセンター　若菜　啓孝

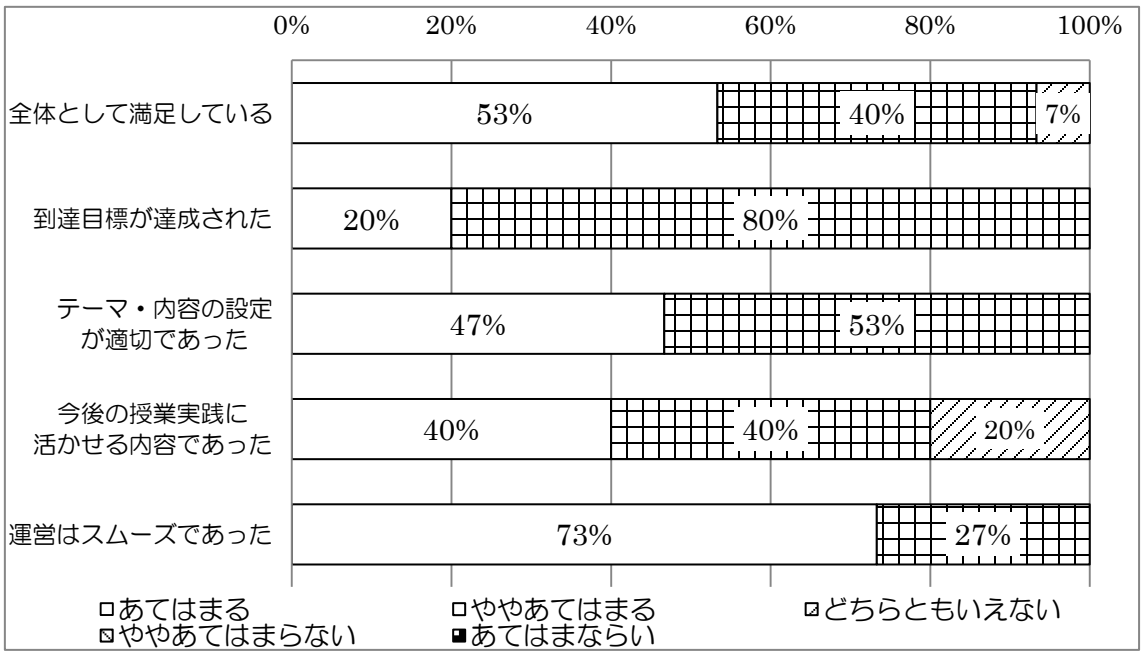
９．参加者：２７名（受講証発行対象者：２７名）

（内訳）

| 所　　属 | 人　　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 1 |
| 工学研究科 | 3 |
| 多文化社会学部 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 2 |
| 医歯薬学総合研究科（歯系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 4 |
| 水産・環境科学総合研究科（水産） | 3 |
| 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 | 1 |
| 国際教育リエゾン機構 | 3 |
| ICT 基盤センター | 2 |
| 大学教育イノベーションセンター | 2 |
| 学生支援部 | 3 |
| 計 | 27 |

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（回答者：１５名）




到達目標：①本学の新しい教学マネジメントの考え方について理解する

②新シラバスの変更点を理解し、シラバス作成を行うことができる。

**Ⅱ．今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。**

- 配布された印刷物ですが、文字が灰色で縮小印刷のものは、人によっては見にくいだろうと感じました。文字を黒にする、4 シート/A4 ではなく 2 シート/A4 にする、というような工夫をいただければ助かります。
- 特に問題ありませんでした。このような FD を継続的に開催頂ますようお願い致します。
- お配り頂いた資料・ご説明・内容ともに非常に分かり易く、大変勉強になりました。全学モジュール科目のみならず、学部科目のシラバスを今後作成する上でも、戸惑うことなく対応できそうです。ありがとうございました。
- 特にありません。
- 基本的な仕組みは理解できました。
- 私だけかもしれませんが、ちょっと暑かったです。
- 説明が分かりやすく、且つ講師の方も親切でした。PEDAGOGY は日進月歩ですので、FD をブラッシュアップに活用することが重要と感じました。
- 特にございません
- シラバス入力の時期での FD ということで、助かりました。
- プログラム自体には大きな問題はないが，ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの策定に関わっていない平（ひら）教員にとってはＦＤ参加へのモチベーションを上げるのは難しい。配布資料だが，「教学マネジメント…その作成要領について」は内容に細かすぎて読めない字があるので，Ａ４判１枚にＰＰＴ２画面で収めて欲しい。学生側に目を向けると小中高と考える授業やアクティブ・ラーニングの経験が乏しい受講生にアクティブ・ラーニングをいきなり施してもうまくいくものではないので，ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを柱とした授業作りを推進するためには教員側のインストラクション・デザイン能力の養成が必須であると感じた。この方面のＦＤを充実させる必要がある。

**Ⅲ．長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。**

- 特に意見はございません。
- 具体的なテーマは思いつきませんが、個人的には受講生の興味・勉学意欲を引き出す仕掛け等に興味があります。無機質と言いますか、授業中に問いかけを行ったり、少し本題とはズレても興味を引き出せそうなトピックを織り交ぜても、（所属学部の専門科目でさえ）反応が薄い受講生が目立つような印象を強めていますので。
- LACS の課題・テストの活用方法、実践事例など
- やはり、アクテイブラーニングのスキルでしょうか。
- 年明けのシラバス入力時期にもう一度同じ内容のＦＤを開催すべきだと思います。
- そもそも「考える学習」とか「アクティブ・ラーニング」が「なぜ必要か」というベースのところを全学の教員が認識し，それではそのためにどのような授業デザインをすればよいかを学びたいと思わせる環境作りが必要だと思う。知識偏重の授業で慣れ育った教員側の意識改革が急務だと思う。英国の中等教育の歴史のカリキュラム・ペ

ーパーの中に「History fires pupils' curiosity and imagination…」とあるが，欧米で主流の「考える学習」によって学生の魂に火をつけること，それによって学生が主体的に考え，信念を築き，責任を持って行動するようになることを期待する，そういうヒューマンな側面を全教員が共有しないといけないと思う。そのためのＦＤを開発して提供して欲しい。一例としてインターナショナル・バカロレアの「ＴＯＫ」（Theory of Knowledge）関係の文書を参考にするのは，それが多くの領域の科目を包含して論じられているので，有益である。

１０．総括

本 FD はシラバスシステムが改訂されたことにともない、シラバスの作成要項について解説するものとして開催された。ただし、今回のシステム改修は表面的な入力方法の変更にとどまるものではなく、来年度から始まる「教学マネジメント」にともなうものである。教学マネジメントは学生の学修成果を様々な観点から可視化することで、学生と教員双方が PDCA サイクルを回すための仕組みである。本年度から始まった「授業アンケート」もその一環である。これまでの「授業評価」では、学生が授業を評価するための機会であったが、「授業アンケート」は、学生がその授業の中でどのような学修ができたかについて振り返るためのものとなった。

今回のシラバス改訂では、各授業の中で「知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力」を 7 つの項目の中から選択することになった。この 7 つの項目は、全学のディプロマ・ポリシーに対応したものである。シラバスの中で、授業の到達目標を明確に記述するだけではなく、授業の中で身につけてほしい能力をディプロマ・ポリシーに合わせた形で記載することで、カリキュラム全体で、ディプロマ・ポリシーで求められている能力の育成に向かうことができるようになるのである。こうした教学マネジメントの中で、今回のシラバス改訂がどのような意味をもっているのかについての説明がなされた。

参加者からの評価として、満足度については「あてはまる」（53%）と「ややあてはまる」（40%）を合わせると 9 割以上の参加者が満足していたことから、当初の目的を十分達成した FD であった。

（文責　成瀬尚志）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　塚元　**和弘**
e-mail：ktsuka@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077